

水循環勉強会の開催結果

1 開催概要

- (1) 開催日時
2024年12月19日（木）午後1時30分から午後3時30分まで
- (2) 開催場所
滝ノ谷池ビオトープ（豊橋市多米町滝ノ谷）
- (3) 講師
特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラム 理事長 大谷 忠興氏
- (4) 参加者
尾張・西三河・東三河地域水循環再生協議会 構成員20名

2 滝ノ谷池ビオトープについて

特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラムが、1998年から豊橋市東部丘陵地帯の多米町滝ノ谷地区付近の敷地を無償で借り受け、整備・管理を行われているビオトープです。

ビオトープ創生により、川全体への多様な生物の供給源となるサンクチュアリを目指すと同時に、メンテナンス、自然観察会などを通じ、付近の小中学校とも関わり合いを持っていくなど、環境教育の場としての位置付けも組み込んだものとするを目標に取り組まれています。



(出典) 朝倉川育水フォーラム Web ページ

＜参考＞朝倉川育水フォーラムについて

1995年設立。滝ノ谷池ビオトープにおける里山づくり・ビオトープ保全活動に加え、設立当初から継続的に行っている朝倉川530（ゴミゼロ）大会、川縁への植樹等の河川環境改善事業、朝倉川の水質及び指標生物の生息状況の継続的なモニタリング等の多様な活動を実施されています。

これらを市民・企業・行政のパートナーシップにより行うことによって、朝倉川流域を中心とする地域全体の環境改善を図り、自然あふれる住みよい地域社会の実現に寄与することを目指しています。

2006年度から、東三河地域水循環再生地域協議会に市民代表の構成員として参画し、水循環再生の推進に貢献されています。

3 開催状況について

朝倉川育水フォーラムの大谷理事長から、育水フォーラムの取組説明や、朝倉川、ビオトープの生き物を紹介いただいた後、実際に、ビオトープ周辺の林内も含めて現地を散策し、重要種の生息・生育環境の保全、創出に向けた整備の実施状況等を説明いただき、意見交換を行いました。

＜参加者からの意見、感想＞

- ・水循環の関わりの中で、生物の多様性や保全活動についてどのような活動をしているのかを知る良い機会となった。
- ・希少生物の保護と育成の大変さ、重要性を実感できた。
- ・環境整備には時間と労力を要するもので、行政のバックアップが必要。
- ・自治体、企業、地元の学校等と連携を取り、多くの人と関係を深めることで活動が長く続けられており、関係者の熱量の高さを感じることができた。
- ・希少な生物があることに気づくには、多大な知識と労力が必要。講師のように、力強く地域の課題に向き合い、引っ張っていくリーダーが必要であると思った。
- ・活動する方々自身が楽しんで活動していることがわかった。生物多様性の保全のための活動を持続的にしていくには「楽しみ」を生み出し、「担い手」を育てていくことが重要だと思った。
- ・自然を知らないと悪意はなくても環境を破壊しかねない。ある程度安全に自然に親しめるビオトープや里山があると子供の頃から自然を楽しむことができ、大人になっても「自然を大切にしたい」という意識が持てるのかなと感じた。
- ・長年続けた活動の効果がモニタリングできていることはすごく良いことだと思った。

滝ノ谷池ビオトープでの勉強会の様子



①管理棟にて、育水フォーラムの取組やビオトープの生き物等について講義を受けました。



②講師の大谷理事長の説明を受けながら、周辺の林内も含めて散策しました。



③自然の浸食力に負けないよう、草刈りを始めた環境整備を定期的を実施しているそうです。



④様々な生き物のための環境づくりに取り組んでおり、ここでしか確認できないような希少種も増えてきているそうです。



⑤ウシガエルやアメリカザリガニといった外来種の侵入を抑えるのも大変ということです。



⑥最後に、各参加者の感想を共有しました。